

よりよい「交流及び共同学習」をめざして

交流及び共同学習は、障がいのある子供にとっても、障がいのない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる等、大きな意義を有するものです。今回は、レオ先生と一緒に「交流及び共同学習」を推進するためのポイントを確認しましょう。



レオ先生

今年は、交流学級の担任なのですが、特別支援学級（以下、特学）の子供たちへのサポートがまだまだだな…と感じています。社会科や体育の時間を一緒に学習したり、給食や帰りの会、行事等を一緒に過ごしたりしていますが、どういうことを大切にしながら「交流及び共同学習」をすすめていけばよいか、正直、よくわからなくて…。



トモ先生

私も特学担任として、交流学級の先生方と連携していかねば…と思いつつ、なかなかできていないのが現状です。一緒にお話を聞かせてください。

交流及び共同学習の形態は様々ありますが、今回は、特別支援学級と通常の学級との間で行う場合についてお話ししますね。

交流及び共同学習には、

相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする「**交流**」の側面と、
教科等のねらいの達成を目的とする「**共同学習**」の側面があります。

交流
豊かな
人間性

共同学習
教科等の
ねらい

特別支援学級の児童生徒の**自立と社会参加を促進**するとともに、

通常の学級の児童生徒にとっても、社会を構成する様々な人々と**共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会**となり、ひいては共生社会の形成につながる、**重要な教育活動**と言えます。



これまで、交流の時間は、特学の子供たちにどう参加してもらおうとよいか、どんな風に支援していけばよいか、そればかり考えていました。なので、通常の学級の子供たちにとっても意味のある授業や活動にしていく、という視点はほとんどありませんでした。

もちろん、教科等を交流学級で行う場合、特学の子供たち一人一人の学びを保障するために、「教科ごとのねらい（学習内容）」や「学習活動」について考えることはとても大切なことです。一人一人の**教育的ニーズに応じた目標やねらいを明確にし、学習活動に参加するために必要な支援や配慮**について確認しましょう。まずは、個別の教育支援計画・指導計画等を活用しながら、交流学級担任と特学担任とで、そのあたりを十分に検討してください。さらに、支援員や教科担任とも連携し、共通理解を図りましょう。



交流の時間の学習については、レオ先生や支援に入ってくださる先生方に任せっきりになっていたかも…と反省です。交流及び共同学習の目的や意義、一人一人の目標や支援の方法について、子供にかかわる教職員全員で共通理解することは大切です。

授業時の子供たちの様子や授業後の振り返り（評価）の共有も重要です。

先生方が一堂に会して話し合いの時間をもつのはなかなか難しいかもしれませんが、休み時間や放課後等にその日の様子を伝え合うところからはじめましょう。たまには、特学担任が通常の学級の授業を、交流学級担任が特学の授業を見に行くことで、子供理解を深めるといったことも有効かもしれません。そこから、指導や支援のヒントが見つけれそうです。



そうすると、特学の子供たちが通常の学級の中で共に学ぶことができる授業づくり・学級づくりが重要になってきますね。

交流の時間が、「時間」と「場」の共有だけに終わることなく、特学の子供たちにとって、学習活動に参加している実感や達成感ももてるものにならないとはなりません。特学の子供たちへの指導や支援について考えることは、通常の学級の子供たちにとっての「わかる・できる」授業にもつながるはず。交流の時間は、先生方が特別支援教育の視点で授業を行うよい機会と捉えてみてはどうでしょう。学びの多様性が保障されるような授業づくりに挑戦してみてください。



あわせて、多様性を認め合える学級集団づくりも重要です。

特学の子供たちが交流学級のクラスの一員として育つよう、ペア学習やグループ活動を工夫したり、交流学級でも役割(係や当番活動等)をもたせたりして、学習場面においても日常生活においても、互いがかかわり合える機会を意識的につくっていきましょう。その際、どちらかの一方的なかかわりではなく、相互理解が深まるような活動にしていくことが大切です。また、子供たちは先生方の姿から学びます。交流学級の担任が率先して特学の子供たちとかかわり、望ましいかかわり方を見つけ、子供たちに広げていきましょう。特学の子供たちが安心して過ごせる学級はまた、すべての子供にとって過ごしやすい学級になるはず。す



交流及び共同学習について考えることは、特学の子供のみならず、多様な教育的ニーズのある子供について考えることにもつながりそうですね。

障がいの有無にかかわらず、クラスの中には多様な子供たちが存在していることを前提にして、今一度、授業づくり・学級づくりについて考えてみてください。

また、交流及び共同学習の機会が、通常の学級の子供たちの多様性への気づきを促し、自己理解・他者理解が深まることを期待しています。相手の気持ちを考えて行動する、一人一人を認め尊重し合えるといった心の育成にもつながってほしいです。そういった経験の積み重ねが、将来、多様な人たちと協働して課題を解決する土台となるはず…共生社会の形成に向けた第一歩となるよう、よりよい「交流及び共同学習」をめざして、学校全体で取り組みをすすめていってください。



はい！すべての子供をあたたく包みこめるよう、がんばってみます！

さらに学び続ける教師、レオ先生であった。



第1回 7月23日(火) 16:15~16:45

読み書きに困難がある子どもの理解と支援



第2回 8月6日(火) 16:15~16:45

ワーキングメモリに弱さのある子どもに配慮した授業・学習の工夫

(いずれの日も、16:45~17:00 は、フリートーク)

★ 学校名_お名前(〇〇小_△△)で参加してください。

まだ間に合う！(申込期間：~6/28)
研修講座申込は、特セHPから

本年度の第1・2回目は、福井県特別支援教育センターが開催する研修講座終了後、感想や意見の交流を行いたいと思います。研修を受けて考えたこと、思ったこと、質問等をみんなで話してみませんか？もちろん、研修を受けていなくても大丈夫！いつものお悩み相談も受け付けます。

たくさんの先生方のご参加をお待ちしています！